



連携事例24

R5.8 更新
(R3.8時点)

OSUSOWAKE おすそわけを世界の言葉に！

～寄付型地域ぐるみローリングストック OSUSOWAKE～

ちば
コラボ大賞
受賞事例



A 明るく T 楽しく G 元気よくは、木村ゼミのモットー
千葉科学大学危機管理学部木村教授及びゼミ生

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

- ・銚子円卓会議 (計 16 名、11 団体)

■協働パートナー

- ・千葉科学大学危機管理学部木村ゼミ
- ・有限会社 根本商店
- ・有限会社 磯初
- ・銚子市 (計 4 団体)

■事業費

-円

■資金調達手段

- ・参加費 寄付

事業概要

災害が発生して支援に動くという通常の流れと異なり、OSUSOWAKE は、日常から地域ぐるみで地元企業に備蓄して備えようとする共助のローリングストックである。期間中（1期半年）事前に協定を結んでいる地域、団体から支援の要請があった場合は、備蓄されている地元産品は企業から直送され、参加者の手元には報告書が送られる。支援要請がなかった場合は、産品は参加者に個別に送られ、次への備えを続けていただく。この仕組みを通して、日常からの防災意識の向上と、寄付参加意識が醸成することを目指し、地元千葉科学大学生の専門的な学びを参加者、地域に提供すると共に、協定先地域の拡充と連携を進め、OSUSOWAKE の理念を、全国、世界へと広げていく広報活動を実践する。銚子円卓会議では、事業全体をコーディネートしながら、多様なまちづくりの主体が連携する中間支援組織の基盤強化を図る。

協働までの経緯

平成25年度、千葉県の助成事業をきっかけに活動をスタートした銚子円卓会議の自立自走を目指す資金調達の在り方を多様な立場から検討する中、令和3年4月地元企業による構想を、銚子円卓会議事務局を中心にコーディネート。情報共有、企画の練り上げと、地域資源を引き出し、つなぐ、仕組みづくりの過程においてさまざま立場の人々の協力を得ることで事業を進め、結果として協働が育まれた。

主な事業内容(年間スケジュール等)

4月～ 関係者間協議、ヒアリング、

8月～ 参加者の募集 広報活動

協定の締結 協力企業との協議 参加者募集活動 広報活動 まちづくりワークショップの開催

11月 検証、ローリングストック入れ替え、第1期の正式募集 —令和4年5月 第2期ローリングストック

📍 主な協働パートナーとの役割分担

▶ 銚子円卓会議

事業コーディネート、多様な立場の人への働きかけ、資金調達の実践、寄付の管理など

▶ 千葉科学大学

広報活動 専門的学びの提供

▶ 地元企業

企業視点による事業提案と協力

▶ 行政/銚子市総務課総務室

事業支援、情報共有、庁内連携

📍 協働事業によって生まれた成果

・域内外から多くの人々にご参加いただけ、挑戦の基盤の自立自走につながる新しい仕組みが生まれた。

・地域特性が活かされたプロジェクトを自分たちの手で生み出したことによりシビックプライドが醸成されている。

📍 今後力を入れていきたいこと

- 域内外に参加者を増やすための広報活動の充実
- ICT ツールの積極的活用



左：木村ゼミ生による記者会見の様子、右：企業、学生とのブレスト

協働事例プロフィール

【活動開始年】 銚子円卓会議 令和3年5月～ 【公式サイト】 <http://choshientaku.com/>

【この事業で活用した補助金】 なし

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 ちばコラボ大賞（令和3年）

【問い合わせ先】 担当者：西田 電話番号：0479-25-8870（銚子円卓会議協働事務局 NPO 法人 BeCOM）

メールアドレス：info@choshientaku.com

♡ コラボのコツ!!

★コツ1 地域資源を引き出してつなげる意識で！

★コツ2 情報は抱えずオープンに！

★コツ3 ATG！（明るく 楽しく 元気よく）

コツに関するコメント



「なぜ行うのか？」「何をを目指すのか？」について、参加者がそれぞれが自分の中で言語化して共有する「対話」を通して立場の違いを理解しながら、自分は何をしたら良いか？を考えながら、進めていくことを意識しています。

またATGがある現場は、誰もが安心して参加でき、新たな価値の創出への近道となると考えます。

